

# 林大だより



第 90 号      令和 7 年 10 月 31 日

長野県林業大学校翌校友会



2 学年    5 月    山の環境学（上高地）



2 学年    6 月    北海道研修



1 学年    4 月    屋久島研修

## 翌松会会長に就任して

翌松会 会長 牧野 博臣



このたび、長野県林業大学  
校翌松会会長を仰せつかりま

した牧野と申します。赤羽前  
会長の後任ということで、身  
の引き締まる思いです。重責

をお引き受けしたからには、  
翌松会の発展のため、学生た  
ちの健康と学業成功のために  
微力ながらも全力を尽くす所  
存です。会員の皆様方のご理  
解とご協力を賜りますよう、  
よろしくお願い申し上げます。

さて、翌松会は保護者様か  
らお預かりしている学生の充  
実した生活の支援と、学校が

定める教育課程が学生に正確  
に反映され共に成長すること  
と、また、地域とも連携を取  
ることにより学生たちの健全  
な成長のための活動を支援し  
ていくことにあると思いま  
す。さらには学生が生活を送  
るうえで不自由さを感じない  
ように支援する点も重要と考  
えます。

また、教職員と保護者がコ  
ミュニケーションをとり、理  
解し合いながら互いに協力す  
ることも大切な部分であると  
考えます。  
私たち保護者は、お互いに

翌松会のさらなる発展のため  
ご理解とご協力をいただきま  
すよう重ねてお願い申し上げ  
ます。  
新入生の皆さん、全寮制の  
生活に慣れましたでしょうか。  
わからないことや不安な  
ことがあれば先輩に聞いてく  
ださい。  
二年生の皆さんは卒業まで  
早くも半年余りとなりました。  
授業はもとより目標に向  
けての準備に忙しいことと思  
います。皆さんのご健闘・ご  
活躍を期待します。

## 選ばれる長野林大生へ

長野県林業大学校 校長 千村 広道



子寮もありますし、男子寮も  
新しくなりました。二十五  
年前には専修学校となり、卒  
業までに得られる資格も格段  
に増えました。

特に変わったのは県外出身  
の学生が増えたことです。私  
の同期にも二人いました。私  
現在の在校生の半分は県外出  
身者です。当時本校のような  
学校は全国に五校しかありま  
せんでしたが、十五年前から  
各地で開校されるようにな  
り、現在は北海道から鹿児島

本年四月から校長を務めて  
おります。私は長野林大七  
期卒業生で、今の一年生が  
四十七期生ですので四十年ぶ  
りの再入学(?)です。よろ  
しくお願いします。  
四十年前は男子ばかりでし  
たが、今は女子学生もいて女

県まで全国で二十八校まで増  
えました。そのような中、近  
十年間での県外者の割合は約  
四割になっていて長野林大が  
全国の若者からも選ばれてい  
ます。  
選ばれる長野林大、その魅  
力は開校以来から変わらない  
「全寮制」と「幅広い進路」  
にあると思います。

一つ目の全寮制は、格安  
(といっても食料費や光熱費  
の高騰で大変です)の寮費で  
保護者にも安心感があると思  
います。ただ、学生には今時  
四人の相部屋生活で授業をサ  
ボっている先生のお迎えが  
あるという生活は厳しいと思  
っているハズです。しか

し、実体験者として(抽象的  
ですが)この二年間は間違い  
なくこれからの自分の「財  
産」になります。「卒業まで  
頑張りましょう!」  
二つ目の進路(これまで  
の割合)については、公  
務員(三十五%)、民間企  
業(三十四%)、森林組合  
(十八%)、進学(五%)、そ  
の他自営等(八%)と他県の  
林大にない幅広い実績があり  
ます。最近売り手市場で今  
年七月の県内有効求人倍率は  
一・二八倍とのことですが、  
二十人の本校への求人は今  
年も五十人を超えています。た  
だ、学生は単に給与が高く休  
日が多いところを選ぶのでな

く、インターンシップを通じ  
て職場の「雰囲気」や「安全  
意識」などを重視して選ぶ  
という姿勢があり、これには  
とても感心しています。  
少子高齢化社会で様々な産  
業が担い手不足の中、林業界  
でも未来を担う人材の確保は  
最重要課題です。現場で活  
かせる資格取得だけでなく、  
「人間力」の高い人材となり、  
業界から「選ばれる長野林大  
生」となって卒業されるよう  
職員一丸となって取り組みま  
すので、今後とも御支援をお  
願い申し上げます。



## 山で会いましょう

木曾森林管理署長 北村 大



長野県南佐久郡白田町（現佐久市）出身の私は、地元的林業高校を出、今の職場に就職し四十年が過ぎたところです。

最初の現場勤務は王滝営林署でした。組織再編があり他の営林署とも合併し現在は木曾森林管理署となっています。初めて見る木曾ヒノキの大木に圧倒されたこと、背丈を超える笹の中を這いずり回るように収穫調査をしたこと、初めて渡された地下足袋、脚絆の履き方が分からず先輩に教えてもらったことなど今でも

鮮明に覚えています。

林業高校を出たと言っても、年に二回演習林に行く程度でほとんどが座学による勉強、そんな私ですから初めて履く地下足袋・脚絆の履き方も知らなかったわけです。

先日行われた信州伐木チャンピオンシップ二〇二五を傍聴させていただきました。選手の中には林大生四名も参加されており、林業を仕事としている先輩方と一緒にテーブルに立って一生懸命チェンソーを扱っている姿を見て感銘を受けました。この技術は

きっと将来に役立つでしょう。

当署では、木曾谷特有の急峻な山から架線集材により立木を出す仕事を請負事業体に発注しており、先日、林大生にもその現場を見てもらったところです。見学された皆さんはどう感じたでしょうか？すごい仕事だな、危ない仕事だな、山で毎日お昼食べて健康的で良いな、などでしょうか。

先輩達が植えたヒノキやカラマツの人工林がこの木曾にも多くあり、その多くが利用期に達しています。この人工林の活用、そして次世代に

向け、再造林していくことが大きなテーマとなっています。そのためには人材が必要です。

先生方、同級生との縁を大切に、将来の勤め先はそれぞれ違えども、またどこかの山で会ったら、「こんにちは、元気？」と言い合える先輩、同期を作りましょう。私も皆さんと山で会えることを楽しみにしています。

## 周囲の観察！危険なし！

日本赤十字社長野県支部指導員 おもちや美術館前館長

竹脇 恵美



日本赤十字社長野県支部の救急法指導員として、林業大で毎年四日間の講習を担当させていただいている木曾町開田高原在住の竹脇です。

心肺蘇生法の実習では、「人が倒れています！」と傷病者を発見した後、次にするのが、タイトルのとおり、自分自身の安全の確保です。その確認をしないまま飛び出せば二次事故、二次災害の危険があり、傷病者の救助も叶わないことになるからです。私たちはプロの救助者ではありません。講習では何回も、ま

ずは自分の安全確保、と学生の皆さんにお伝えしています。

林業の現場では、数多くの危険が潜んでいます。伐採などの作業ばかりでなく、地形や天候、蜂、蛇、熊などの危険生物、また携帯電話の通じないところでの急病など、様々な危険が想定されます。もちろん、安全に仕事をするため、機械の仕組みや扱い方など多くのことを学び、技術の向上のため、日々努力を重ねていることと思います。それでも現場では予想もしない危険にさらされることがある

かもしれません。そんな時、自分自身の身を守り、仲間や大切な人の命を守るよう、林大では赤十字の救急法をカリキュラムに取り入れています。

講習では、心肺蘇生のほかにも止血法や三角巾での包帯法、また中毒や熱中症の予防など幅広い知識も学んでいただきます。二回の学科と実技の検定試験を行い、合格した学生には赤十字の「救急法救急員」の資格が与えられますが、それで安心することなく、いざという時、勇気を持って行動できるよう、これ

からも正しい知識と技術の習得を是非継続していただくさい。そして何より、皆さん自身が傷病者になることがないように、常にタイトルのよう

に声に出して安全確認をしてください。

矛盾するようですが、しっかりと技術を身につけながらも、その技術が活かされる日が来ないことを、心より強く願っています。



学生の  
ページあす  
なる  
の  
呟

つぶやき

## 学 校 ・ 寮 生 活 か ら

## 入学してから

今まで

1 学年  
伊藤 葵

四月から長野県林業大学校に入学することになり、この半年の間に様々な経験をしました。最初のうちは一つの部屋に四人で共同生活することに慣れず、なかなか寝付けないう夜もありました。カーテンで仕切られているとはいえ、相手の生活音に敏感になりストレスでした。今は時間がたちこの生活にも慣れ始め、それなりに過ごせています。この他にも、入学して早々に屋久島研修へ行きました。人生初の飛行機にも乗れ、屋久杉と大自然をこの身で体感することができました。

夏も終わりに本格的に季節が

変わり始めている中、こうして今までの生活を振り返ると、もう四分の一が過ぎてしまい、二年間はあっという間に終わってしまうなと感じました。今までの期間も含め、この二年間は自分にとって必要で意味のあった期間だったと卒業しても思えるようになります。そのために、自分の目標を達成するため、時間を無駄にせずこれまでに学んだことを深めていきたいです。



1 学年 4 月 特用林産学（シイタケ植菌）



1 学年 5 月 救急救命

特に、文化や価値観の違いからコミュニケーションがうまくいかないこともあり、戸惑うことの連続でした。でも、それは最初の十日間くら

1 学年  
鈴木 朝信

## 林大の日常

きました。私は林業大学校の魅力はチェーンソーだけではなく日々の実習や校外学習での施設見学、そして地域との交流イベントだと思います。残りの学校生活はしっかりと学ぶとともに地域イベントにも積極的に参加し充実した学校生活を過ごせるようになります。

長野県林業大学校に入学し約半年が過ぎました。その中で、多くの経験と楽しい出来事がありました。私は愛知県の農林業高校へ行き林業の基礎について学ん

1 学年  
坂口 凜空

できましたが、大学に入学し今まで学んできたことはもちろん、森林の土壌や森林経営についてなど高校では学ぶことができませんでした。その中で一番楽しかったと思ったのがチェーンソーの実習です。高校ではチェーンソーを見かけることはありましたが基本的に教員が使用していました。しかし、大学に入学し基本的な技術はもちろん、ハスクバーナーさんの研修により知識や応用技術を学ぶことがで

## 林大に入学して





1 学年 6 月 トップガン研修

慣れてくると、お互いのことを深く理解できるようになり、今ではスムーズにコミュニケーションがとれ、充実した日々を過ごしています。

初めての親元を離れた生活は大変だと感じることもありますが、「なぜここに来たのか」という目的を忘れず、日々をより良くしようと前向きに取り組んでいます。



1 学年 藤田 智輝

## 林大に入学して

四月に長野県林業大学校に入学してから約半年が経ち、入学前とは違う環境にも

管理を怠らずきちんと生活できるか」など不安がたくさんありました。ですが、入学し先輩方や同級生たちと一緒に生活していくうちにこの環境にだんだんと慣れていき不安はなくなりました。授業では先生方が一つ一つわかりやすく教えてくださり、実習や校外研修も楽しみながら受けることができています。寮での生活は各々が自由に生活しており、先輩の優しさもあり楽しく生活できています。林大生活の約四分の一が終わってしまったことにすぐ時間が経つのが早いと思いました。これからの一日一日を大切に、卒業する際に後悔がないように過ごしていきたいと思っています。



1 学年 三好 健太

## 林大に来て感じたこと

長野県林業大学校に入学してから、あっという間に約半年が過ぎました。入学前は林

業大学校なのだから、自分よりも機械技術や林業知識が豊富な人たちがばかりではないのだろうか、先輩方や入学してくる人たちの寮生活はうまくやっていたのだろうかとか不安でした。だけど、入学してくる人たちは自分と同じようなレベルの人や、林業について初めての人が多いと知り、授業はある程度知っていることが多いと思うことができました。それも私が農林高校出身だからそう思っていました。ですが、林業大学校に入学してから新しく学ぶこと、高校で学んだことのより詳しい

こと、実際に植樹やチェーンソーなどの実習を通して、林業についてまだ知らないことが多いのだと実感しました。これからの林業大学校での一日一日を大切にして残り約一年半でたくさん機械技術や林業知識を身に付けて、自信をもって仕事ができるようになりたいです。



1 学年 7 月 林業概論（赤沢自然休養林）

早くも  
残りあと半年



2 学年  
伊藤 千紘

早いもので入学してから一年半がたちました。「まだ一年あるから大丈夫」と思っていたところが懐かしく、就職に頭を悩ませる日々を送っています。

林業の知識も技術もゼロで入学した私にとって、林大の授業は刺激的なもののばかりです。特にチェーンソー技術は、自分の思い通りに使えた時の達成感や喜びが大きく、虜になっています。

また、入学当初最も不安だった寮生活についても、友人に恵まれ楽しい生活を送れています。むしろずっと一緒にいるのが当たり前のようになってきて、卒業時それぞれの場所へ別れることができるのか心配なほどです。

ほかにも北海道や屋久島、上高地など様々な場所へ行き、かけがえのない思い出をたくさん作っています。

そんな林大生活もあと半年。これから実習が増え、ますます実践的な授業になると思います。今のうちにできる限りの知識や技術を身に付け、来年から役に立てる人になれるよう大切に過ごしていきたいと思っています。

林大での一年半を  
振り返って



2 学年  
菊池 翔斗

長野県林業大学校に入学して二年目を迎え、学びも一層深まってきました。昨年は基礎的な知識や技術を中心に習得しましたが、二年目となる今年は、より実践的な演習や現場での経験を通して、林業の全体像を理解する機会が増えていきます。



2 学年 4 月 林業機械学

特に、立木伐倒といった実地での活動は、安全管理や効率的な作業の重要性を身をもって感じる貴重な場となっています。また、地域の森林組合や企業でのインターンシップを通じて、林業が地域社会と密接に結びついていることも学びました。

仲間との協力や議論を重ねる中で、自分自身の課題も明確になり、将来の方向性を考える良い刺激となっています。今後はさらに専門性を高め、森林を守り育てる担い手として成長できるよう努力を重ねていきたいと思っています。

二年生になって



2 学年  
須藤 耀太

私が長野県林業大学校に入学してから、早くも一年半が経ちました。入学した頃を振り返ってみると、初めての寮生活や四十六期の同期と馴染めるかなど不安なことがたくさんありました。しかし、優しい先輩方や同期に囲まれ、充実した日々を過ごしていくうちにそんな不安は消えていきました。

その中でも特に印象に残ったのが一年の屋久島研修です。まだ入学したてでしたが、縄文杉まで協力して登っていったことは一生忘れることはありません。

そんなこんなで二年生になり、先



2 学年 4 月 木曾こども園児との交流

輩の立場になりました。正直、半年経ってもなれることはありませんが、同部屋後輩の指導や意思疎通などをかつての先輩方を思い出してやっていきました。

一年半、これまでの林大生活を振り返って一瞬でした。きつとこれからの半年も一瞬で過ぎると思います。なので林大生活をこれまでのように楽しみ、充実した日々を過ごしたいと思います。



林大に入って早くも一年半が経ちました。福岡市出身の私にとって、木曾での暮らしはすべてが新鮮で、この一年半は学びと挑戦の連続でした。自主研究は獣害対策と獣害利用の二つを行っていま



2学年  
布元 武瑠

### 森と向き合い 地域を元気に



2学年 5月 木材商業論（東信方面）

をどうつけることができるか模索しています。地域の方々と趣味の弓道を通じてつながりを持ち、ボランティア活動にも積極的に参加してきました。こうした経験を重ねる中で、林業は地域と密接に結びついた仕事であることを実感しています。将来は木曽地域の役場職員として、過疎化が進むこの地域を若い力で元気にしていきたいと考えています。残りの学生生活でも実践を積み重ね、地域に貢献できる人材を目指します。

す。獣害対策では、わな猟免許を取得し、猟友会に加入しました。センサーカメラを用いた野生動物の生息調査、毎日わなの見回りを欠かさず続けることで、獣害対策の現状や森林との関わりを肌で学んでいます。獣害利用では、駆除されたイノシシやシカなどの鳥獣に付加価値



2学年 5月 車両系機械技能講習



2学年  
牧野 大河

### 林大での 一年半とこれから

長野県林業大学校に入学してから約一年半が経ち、寮生活も残り半年となりました。大きな存在だった先輩方が卒業し、四月からは二年生とな

り、私は寮長という責任ある立場を任せられました。初めは不安もありましたが、副寮長をはじめ仲の良い友人たちに支えられ、何とか威厳ある寮長として過ごせています。今年は御仙始祭や北海道研修、信州伐木チャンピオンシップなど、さまざまな経験を通じて、改めて長野県林業大学校に入学して良かったと感じています。現在は就職活動を始め、いよいよ社会人になる準備を進めています。林

業は肉体労働のため、体力や筋力が欠かせません。そのため、残りの半年間、正直やりたくない筋トレもできるだけ頑張りたいと思います。林大で過ごした一年半は本当にあつという間でした。きつと残りの半年も同じように過ぎていくでしょう。だからこそ、仲間とともにたくさん大切な思い出を作りたいです。



2学年 9月 フォークリフト運転技能講習

保護者の  
ページ絵  
の  
一  
言

## 林業を

## 目指す息子

荻原 はつみ



した時は涙が出た。

林大に進学して半年、彼の人生で一番学校を楽しんでる様子を聞いている。やりたい事は、下草刈りではなく、高所の特種伐採に変わって、同級生とアーボリストの講習に出かけている。たまに帰ってきて、生き生きと私の知らない事を話す息子を頼もしく感じている。やりたい事を見つけた彼の成長が楽しみだ。

## そのまま

## 大丈夫

## 一学年 父母

小さい頃より海や魚が大好きで、家を離れてまで海を学べる高校に通っていた娘。海を豊かにしているのは山や森だと学び、天啓を受けたように林業の道に進むと突然の報告：驚きでしたが、中学校に続き二回目で親も慣れるものですね。林業は女子の進む世界ではないとの声に揺らぎ迷いながらも、最終的に自分を信じて勇気を振り絞り一歩踏み出したこと、誇りに思いま

す。

今は林業大学校で専門的な知識を得始めたからこそその悩みもあるようですが、支えを受けながらも出来ることをやろうと向き合う姿は、なんとも眩しく逞しく映っています。知識視野を広げ経験を重ね、より良く変わっていかうとすることは成長・バージョアップ。すでに蹟く経験も自分の力に変えられてるから「そのまま大丈夫」。女性であるからこそ感性や自分らしさも、柔軟な考えで自然と人々の生活の調和を図る視点として、いずれ役立つ機会はあるよ。

未来は日々の積み重ねの先にあるもの。自分の気持ちをまず大切に、今しか過ごせない時間を存分に味わって楽しんで。

## 大きく成長して

## くれました

中澤 彩



入学当初は、新しい環境や専門的な授業、慣れない一人暮らしにきちんと順応できるのか、親として大きな不安がありました。しかし自然の中での実習や仲間との協力を通じて少しずつ自信をつけ、また寮生活での生活面でも成長した姿を見せてくれるようになります。ここまで成長させてくださった先生方、一緒に学ぶ皆様には本当に感謝しております。

## 1 学年 6 月 チェーンソー実習

林業という分野は決して楽しい道ではないと思いますが本人が自ら選んだ進路であり、真剣に学びに向き合う姿を見て、これ

林業の仕事に就きたいという思いから林業大学校に入学して、あつという間に半年が過ぎました。入学当初、新しい環境での生活に慣れるまでに時間がかかるだろうなと思っていましたが、入学して一ヶ月経たないうちに楽しく生活していると知り、とてもホッとした時の事を思い出します。そんな楽しい生活を送る事が出来るのは、本人の頑張りでだけではなく、たくさん

## 出会いを大切に

松岡 美和



からの可能性を強く信じられるようになりました。来年はさらに専門性を高め、学びを実践に結びつける機会も増えると聞いています。親としては健康に気を配りながら、一歩一歩確実に前進し、将来の夢へとつながっていく姿を見守りたいと思います。



優しい先生方、先輩方や同級生、美味しいご飯を作って下さる寮母さんがいる温かい環境があるおかげだと思えます。

今では休みの日にアルバイトをするなど充実した日々を送っているようですが、きっと楽しい事ばかりではなく、大変な思いをしたり、たくさん失敗したりする事もあると思います。

「失敗は成功のもと」何事も前向きに捉え、乗り越えていってくれたらと思います。応援しています。

## 期待

山田 謙



私たちが住んでいるのは、雄大な山、自然豊かな川とは縁遠い海に面した街です。そのため、あまり林業に接点を持つことがありませんでした。

そんな環境の中、息子がク

ライミング部↓山岳部そして山に興味を持ち、林大に行きたいと聞きました。確かに、私も日本には手つかずの資源が山ほどあり、なかなか面白いと思いい、知らない世界に興味を持ち可能性を感じました。

今、コロナ禍を経て、仕事もプライベートもPC、スマホ、タブレットと必要不可欠な世の中になり、効率化、簡素化、時短を重視されてきたように感じます。良いことはたくさんありますし受け入れていくべきことではあります。そこに支配されつつあるように思います。私自身もスマホは片時も手放せません。

だからこそ私が世の中に出る人として期待するのは、体験を経た経験、経験をもとにした思考、そして行動、世の中に柔軟に対応できる自由さ、些細なことに目をやり、普通のことに疑問を持ち感動し感謝する。

それらは林大の環境、共同生活、林業を通じ豊富な経験の機会の中、育まれていくことと思っております。

自然豊かな木曽町、長野県林業大学校の中で学べることに感謝しています。

## 「感謝」の気持ちをもって

石川 法之



息子が林業大学校に入学してから早一年と半年が過ぎ、時の流れの早さを感じます。

さて、本日は息子が社会人になる目前というタイミングでのご依頼でありましたので、「感謝」することの重要性について書かせて頂きます。

「感謝」とは、人からの厚意や自然からの恵みなどを受けた事に対し、「ありがたい」と思う事です。が、「謝」という漢字に表されているように、その対象（人）に言葉に出して伝える事が重要です。これから社会に出ていく中で、様々な困難に向き合っていく事になりますが、常に「感謝」を意識した言動・行動を行う事は、自身のみならず相手の行動も大きく変える事につながりますので、困った時には周囲の方々が助けて

くれるでしょう。是非これからの人生では「感謝」という言葉を常に意識して生活してもらえればと思います。

最後になります。が、木曽の大自然の中で、親子共々様々な貴重な経験をさせて頂いた事に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

## 木曽の自然と人に育まれ

岩崎 幸江



幼い頃から、野山を駆け巡り自然に触れのんびりと育ってきた息子が林業を学ぶと木曾に旅立ち、あつという間に二年目の夏が過ぎました。

林大での専門的な学びと現場での体験はとても充実している様子で、時々投稿されるインスタでも仲間たちと笑顔

で写る楽しそうな姿を垣間見ることができ、大変嬉しく思います。

たまの休みに一緒に山歩きをすると、森や木、地形など専門的な話をしてくれて成長を実感します。また、先生方や実習先、地域の方々からも温かく関わって頂き、コミュニケーション力もグンと身についたようです。皆さまには、心より感謝いたします。

「将来は現場で働きたい」と林業の世界に飛び込んでいく覚悟を持って就活中。危険も多い仕事なので心配な反面、現場を体験してくる度に遅しく頼もしくなる様子に、心から応援したいと思っています。



2学年 9月  
森林保護獣害対策学（病虫害観察）

## 成長 し続けること

五條 桂子



入学してから一年半が過ぎ

ました。入学当初息子は、やせ型の体型でした。スーツは新調し、体格が大きくなることを予想し、少し大きめのスーツを買いました。一年生の夏過ぎから体を鍛え始め、プロテインを飲み、帰省

## 一年半を 振り返って

天間 啓介



早いもので入学から一年半が過ぎました。

林業大学校での教育は、自

するたびに体が「ムキムキ」になっていきました。今まで見たことのない努力をし、体を鍛え始めた息子は、自信を持ち、自己肯定感が上がりました。ただ体を鍛えすぎて、就活の時スーツのズボンが「パツンパツン」で破れてしまうのではないかと心配でした。

就活も終了し、林大生活半年となりまし

た。仲間達との寮生活、充実した時間を過ごしてほしいと思います。

寮生活「全寮制」はかけがえのない財産となり、これか

然環境の大切さ及び先人たちが築いてきた特殊技術の継承。また、寮生活を通じて親に頼る事無く、自己管理の意識向上と仲間達と支え合いながら生きていく協調性の強化。大和魂をもった大人に成長していく姿に感銘を受けています。

昨今、第一次・二次産業の必要性は見直されつつありますが、伝達者が後期高齢を迎えている為、日本の心と技術は衰退の一途を辿っていま



アダプト活動（花壇草取り）

ら社会人となり困難なことがあったとしても、自分で考え、自己決定し、自己肯定感を高め、成長し続けてほしいと願っています。

す。日本の未来を真剣に考えている大人も少ないのが現状です。

でも悲観的になる事はありません。学生時代に培った小さな変化を積み重ねる事で、大きな結果を生み出します。やがて周りの世界も変わっていきます。周りの世界が変わればいつか日本が変わります。最後になりますが、先生方職員の皆様、立派な若人を育成頂き誠に感謝申し上げます。

## 感謝

原 和代



娘が長野県林業大学校で過ごした一年半はとても貴重なものとなりました。

高校の時「樹木医になりました」と言い出した時は「どこからその樹木医が出てきたの?」と思いました。周りには全くその関係の人がいなかった

ので不思議でしたが、本人は熱心になりだし、それならと進んだのがこの林大への道でした。

オープンキャンパスに参加した際、学び舎としての環境や林大生や先生の人柄の良さにも共感しました。ただ上学年に



2学年 9月 造園学実習（剪定）

女子生徒がいなことを心配しました。しかし入学時に女子三人揃い、寮生活もお互いを成長させていく人間関係が築けて良かったです。電話をしてもラインをしても帰省しなくても「楽しい!」ばかりだったので親としてとても安心しました。

この一年半で仲間、先生、寮母さん、地域の皆様に支えられ沢山の経験を積むことが出来ました。

卒業まで残りわずかですが、関わって頂いた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。



なぜ林業か、と  
自分に問う株森未来  
高橋 幸司  
(第40期生)

なぜ、林業に関わるのか。  
なぜ、学ぶのか。

私は日々、この問いを自分に投げかけています。

林業を通じて目にした山の景色や、そこで出会った人々とのご縁。そうした一つひとつに報いるために、自分は何

一日一日を  
大切に准教授  
新津 めい

この四月から林業大学校に異動してきて早くも半年が経ちました。異動してくるまでは林業大学校との関わりはほぼ無く、学生の皆さんはどのような学校生活を送っているのだろうとドキドキしながら

をすべきなのか。

私は幼い頃からキャンプや自然と触れ合う機会が多く、高校卒業後の進路を考えた時、「森林に関わる仕事をしたい」と思うようになりました。調べるうちに林業という道を知り、興味を持ち、林業大学校に進学しました。

林大では座学から山での実習などを通じて、多くのことを学びました。とある山での実習の時、青空の下で緑が整然と並ぶ景色に思わず見惚れ

檜の  
アドバイス

入学式を迎えたことを覚えています。保護者の皆様や関係者の皆様には大変お世話になります。ありがとうございます。

私は主に授業編成を担当しています。毎月の授業時間割の作成や、講師の方々の日程調整、日々の授業準備を行っています。最初、学校便覧を見たときは授業内容の多様さに驚きました。専門科目の座学やチェンソー操作を

たことを今も鮮明に覚えています。そして、林大卒業後も現場で働く人々の話を聞く機会がありました。そう言った風景や会話を言葉は、私の心に深く残り、林業に関わりたという思いを強くしました。

現在、私は株式会社森未来という木材流通のスタートアップで、広報やマーケティングに携わっています。日本の国土の約七割を森林が占めているにもかかわらず、木材

自給率はまだ半分にも届かず、流通の断絶が課題です。

私たちはその課題をビジネスの力で解決しようとしています。データやテクノロジーを活用して流通を効率化し、持続可能な木材の市場を広げていく。それによって、山で働く人々に還元できる仕組みをつくりたいと考えています。

私の志は、山で出会った人々やその景色に報いることです。山の多様な価値を社会へ届け、林業に関わる人たちが笑顔で働ける

未来をつくりたい。まだ道半ば

さんは十分承知のことと思いますが、ぜひ一日

一日を大切に過ごしていただきたいです。授業風景を見ると、楽しそうに受けている授業があれば、苦しく途中で力尽きて（寝落ちして）しまう様子も見受けられます。私自身も経験がありますが、興味のないことは学ぶのも苦痛で避けてしまいがちです。

しかし、林業大学校の二年間の授業は、教養科目においても今後の授業や、将来林業関係の仕事に就いたときに必

ですが、この思いを胸に日々取り組んでいます。

林大生の皆さんに伝えたいのは、自分がなぜ林業を学んでいるのか、その意味を問い続けてほしいということ。そして、様々な人の話を聞き、いろいろな場所に行き、多様な経験を重ねること、必ず自分の志が形になっていきます。私自身も模索を続けていますが、一緒に「林業を通じて自分は何を成し遂げたいのか」を考え、歩んでいきましょう。

要となる知識や林業に限らず社会生活で役立つ知識が詰まった内容となっています。

また、外部講師としてお越しいただいている各大学の先生方や林業関係業界の方々も、皆さんの力になれるような内容を考えて授業をしてくださっています。もちろん学校教務職員も同じです。毎日を大切に、林業大学校での学校生活を楽しく実りあるものにしてください。

## 林大生の活動報告

4月3日に入学式が行われ、新たな年度がスタートしました。昨年度は早々に新型コロナによる学年閉鎖などがありましたが、今年度はそのようなこともなく、様々な活動を行うことができました。当初、寮生活など戸惑うことも多かった1学年生も徐々に慣れ、林大生の底力を存分に発揮する中、地域の皆さまとの交流を深めることができました。今後も地域を愛し、地域に愛される林大生であってほしいと願います。

### 御杣始祭での活動（6月）



6月3日、20年に一度行われる伊勢神宮式年遷宮の「御杣始祭」に2学年生が林大生として初めて参加し、伝統的技法「三ツ紐伐」を見学した後、杣人の皆さんと一緒に御神木の引出しを行いました。

### 御嶽山登山道整備に参加（7月）



7月2日、御嶽山登山道整備に1学年が参加しました。枕木の整備、草刈り、雨水対策の水路づくり作業に地域の方々と一緒に汗を流しました。

### みこしまくりでの活躍（7月）



毎年7月23日に実施の「水無神社例大祭（みこしまくり）」に参加しました。みこしを担ぎ、木曽の熱い夏を堪能

させていただきました。次の日は肩が真っ赤に。

### オープンキャンパスで実技を披露（7・8月）



7月26日、8月24日のオープンキャンパスでは、2学年メンバーが日頃研鑽に励んでいるチェーンソーや林業機械の操作技術の「スゴ技」を披露しました。

丸太を6段積み上げた際、大きな拍手が沸き起こりました。

### 信州伐木チャンピオンシップに出場（8月）



8月30日に林大グラウンドで開催された2025大会に2学年4名が出場し、ビギナークラスでは清野嗣君が見事な逆転優勝！エキスパートクラス出場の名も卒業生ら競技経験のある強者を相手に頑張りました。

### アカデミー・ジュニアクラス伐木競技 交流会中の競技会で優勝（9月）



9月14日に鳥取県で開催された学生交流会中の競技会に、本校1学年の向井鉄太君（鳥取県出身）が参加しました。緊張の中、日頃の実力を発揮することができ、見事優勝しました。おめでとう！！



■事務局 長野県林業大学校内  
〒397-0002  
長野県木曽郡木曽町新開4385-1  
TEL 0264-23-2321  
FAX 0264-21-1058